

平成 2 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	2		学校名	茨城県立高萩清松高等学校				課 程	全 日 制			学校長名		宮 内 教 男					
教 頭 名	岡 崎 健 一			蛭 田 清 孝									事務（室）長名		松 本 隆				
教 職 員 数	教 諭	41	養護 教 諭	1	常 勤 講 師	8	非 常 勤 講 師	10	実習教諭、実習講師、実習助手			4	事 務 職 員	3	技 術 職 員 等		3	計	74
生 徒 数	小学科		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		合 計		合計クラス数						
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	1 5 クラス						
	総合学科		85	102	89	103	82	101	0	0	256	306	(562名)						

2 目指す学校像

◎自主・自立の精神を培い、自らの未来を拓く力を育て、個性に満ちた心豊かな人間性を持つ人材を育成する。

- (1) 生徒の実態を把握し、わかる授業の実施に努め、基礎学力の養成を図る学校
- (2) 自ら学び、自ら考える学習を進めることにより個性の伸長を図り、学ぶ意欲を高める学校
- (3) 多様な個性に対応する進路指導の充実を図り、一人ひとりの進路目標の実現を図る学校
- (4) 生徒の健康の保持増進及び安全な生活の維持向上を図る学校
- (5) 部活動等を通して、社会性を備えた人間関係を経験させ、相互に尊重しあう心を育てる学校
- (6) 家庭・地域社会と連携・交流を深め、開かれた学校づくりに努め、健全で心豊かな生徒を育成する学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	① 将来に対して明確な目的意識を持つ生徒が少ない。 ② 生徒一人ひとりに学力差があり、教科による学力の偏りも見られる。 ③ 家庭での学習時間が不足している。	ア 丁寧で、わかる授業を展開するために、十分な授業時間を確保するとともに、指導内容を精選し、どのように工夫改善して展開するか。 イ 基礎・基本を確実に定着させるために設定した10分間学習時間や授業、課外指導において補助教材やプリント・ドリル等をどのように活用するか。 ウ 家庭での学習習慣を身につけさせるため、宿題や課題をどのように与え期限までに提出させるか。
進路指導	① 目的意識を持ち、意欲のある生徒の自己実現を図らなければならない。 ② 社会人として必要なコミュニケーション能力やマナーが欠如している。 ③ 卒業時を見通した1、2年次の進路指導が不十分である。	ア 目的意識をしっかりと持たせ生徒の能力を伸ばすための発展的学習内容や課外授業をどのように充実させるか。 イ 自分の能力と適性を知り、将来の進路に早く関心を持たせるため、効果的な面接や進路指導・体験学習・授業「産業社会と人間」等をどのように関連づけて実施するか。 ウ 勤労の意義や重要性について、意識をどのように高揚させるか。 エ 四年制大学への合格者と系列における資格取得者の増を継続的に目指す。

生徒指導	② 元気よく挨拶のできる生徒が少ない。 ② 服装・髪型等の乱れは改善されつつあるが、皆無とは言えない。 ③ 自ら考える姿勢や学ぶ意欲の低い生徒が多い。 ④ 保護者と共に指導する体制が十分ではない。	ア 理由のはっきりしない欠席・遅刻・早退をできる限り減らす方策を考える。 イ 高校生活への適応指導や生徒面接をどのように充実させるか。 ウ 全教職員協働で、挨拶・礼儀・服装・髪型・ピアスの禁止等の指導を徹底させるにはどのようにしたらよいか。 エ 生徒理解を深める個人面談、保護者への連絡や依頼、保護者との連携した指導には、どのような方策が効果的か。 オ 公共マナーへの意識を高めるための方策は何か。 カ 1年次生を学校生活に適応させる方策は何か。
特別活動	① H R 活動や部活動の自主的・自発的な参加が不十分である。 ② 学校全体の活気が更に欲しい。	ア ホームルーム活動や学校行事、生徒会活動、部活動へ積極的に参加させるにはどのようにしたらよいか。 イ 学校行事の効果的運用を図り、集団の一員としての所属感を育てるにはどのようにしたらよいか。 ウ ホームルームや委員会、生徒会の役員などについて、リーダーとしての資質をどのようにして高めるか。
保護者、中学校との関わり	① P T A 活動への保護者の参加が十分とは言えない。 ② 中学生やその関係者が総合学科の内容をよく理解していない。	ア P T A の活動および学校の保護者向け懇談会へ積極的に参加させるにはどのような方策があるか。 イ 支部活動の活性化を図るためには、どのような興味づけをしたらよいか。 ウ 中学校へ総合学科の内容や本校の活動方針を伝え、理解してもらうにはどのようにするべきか。

4 中期的目標

(1) 授業時間を確保し、わかる授業の実践に努め、自ら学び、自ら考える学習を促すための基礎学力の向上を図る。 (2) 「我慢する心」をはじめ、心の教育の充実を図るとともに、職場体験やボランティア活動を通してマナー教育に取り組む。 (3) 生徒の多様な進路希望の実現を図るために、3年間を見通してコミュニケーション能力を育て、個人面談・進路ガイダンス・体験学習等の進路指導を充実する。 (4) 生徒、保護者、地域社会への情報を発信し、「地域の中の高等学校」として開かれた学校づくりに努める。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
(1) 基本的な生活習慣の確立	ア 規則正しい生活習慣および社会的ルールや社会生活に必要なマナーを身につけさせる。 イ 元気よく挨拶し、礼儀正しく、約束を守る、誠実な生徒づくりに努める。 ウ 制服を正しく着用させる等、身だしなみを整えさせ、地域から信頼される学校づくりを目指す。
(2) 基礎学力の定着と進路希望の実現	ア 大学や専門学校への進学や就職に必要な基礎学力の定着、資格取得に力を入れる。また、学力増進を希望する生徒への課外指導を実施し、実力養成に努める。 イ 家庭での学習習慣を身につけさせるために、課題を課し、提出物の期限厳守を徹底させる。 ウ 授業「産業社会と人間」を活用し、1年次からキャリア教育を徹底させ、進路目標を決定し、高校生活を充実させる。 エ 3年間を見通して、聞く力、表現する力、メモをとるなどのコミュニケーション能力を育成する。

(3) 特別活動の活性化	ア 部活動へ積極的に参加させ、主体的な活動で個性を伸ばし、さらに充実した学校生活を送らせる。 イ 学校行事への積極的・意欲的な参加を促すとともに、ホームルーム活動、生徒会活動等を充実させ、達成感を味わわせ連帯意識を培う。
(4) 心の教育の充実	ア 心の教育、「道徳」を推進し、他人を傷つけず、思いやる心を育成する。 イ 生徒一人ひとりを把握して個に応じたきめ細かな指導に努める。 ウ 職場体験やボランティア活動を通して、「我慢する心」や地味で地道な作業の大切さを学ばせる。